

大分県の農林水産業の現況について

(1)大分県の農業の現況について

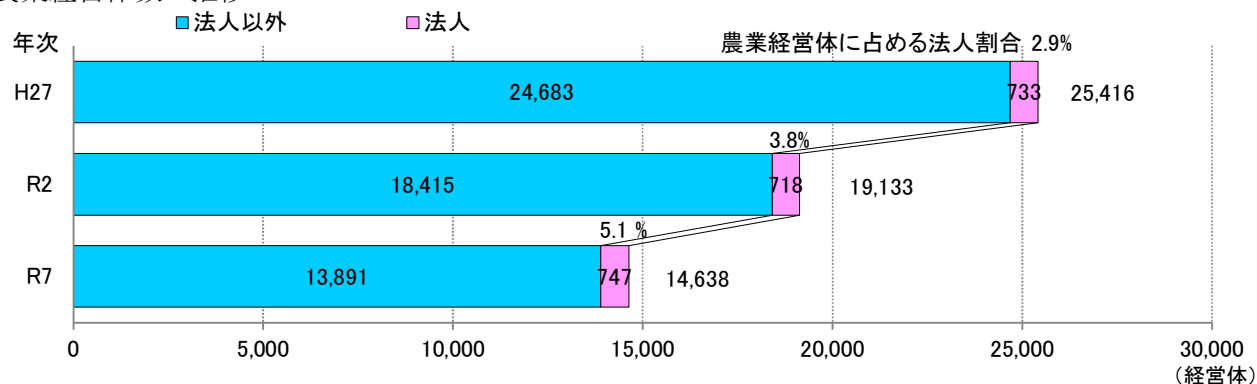
大分県は、標高0mから1,000m近くまで耕地が分布し、耕地面積の約70%が中山間地域に位置する起伏の多い地勢にあり、こうした地域条件を活かした園芸や畜産、米など多様な農業が営まれている。

① 農業経営体のすがた

ア 農業経営体数

「2025年農林業センサス」によると、令和7年の農業経営体は14,638経営体であり令和2年よりも減少しているが、法人経営体数が29経営体増加したことによって、農業経営体に占める法人割合は5.1%まで増加している。

《農業経営体数の推移》



注) 農業経営体: 経営耕地面積30a又は各品目の経営規模が一定の基準以上の経営体(露地野菜作付面積15a以上など)又は農作業の受託を行なう者
資料: 2025年農林業センサス(農林水産省)

イ 農業経営体の販売金額

販売金額が3,000万円未満の経営体が減少する一方で、3,000万円以上の経営体は令和2年比で107%になった。

《販売金額別の農業経営体数》

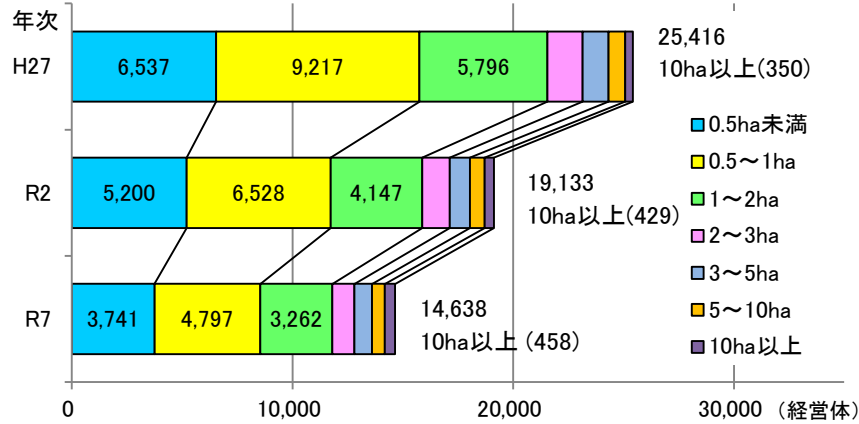
販売金額	年次		増減	(R7/R2比)
	R2	R7		
100万円未満	12,472	8,880	▲3,592	71%
100~3,000万円未満	6,245	5,314	▲931	85%
3,000万円以上	416	444	+28	107%
3,000~5,000万円未満	186	190	+4	102%
5,000万円~1億円未満	129	137	+8	106%
1億円以上	101	117	+16	116%

資料: 2025年農林業センサス(農林水産省)

ウ 経営耕地面積規模別農業経営体

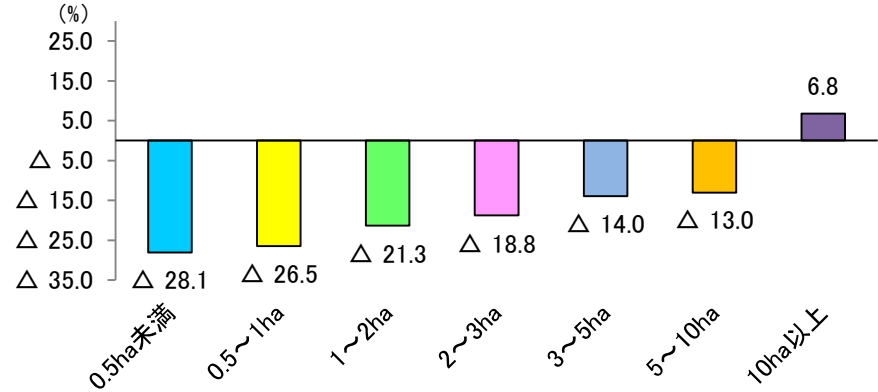
経営耕地面積規模別の農業経営体数は、経営規模が小さくなるにつれて減少率が大いだが、10ha以上の経営体は増加している。

《経営耕地規模別の農業経営体数の推移》



資料：2025年農林業センサス(農林水産省)

《経営耕地面積規模別の農業経営体数の増減率(R7年/R2年比)》

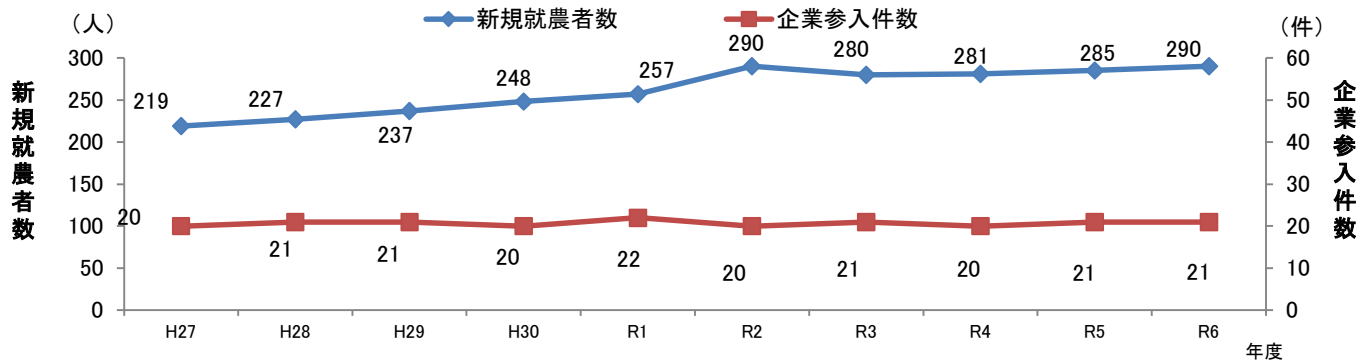


資料：2025年農林業センサス(農林水産省)

エ 新規就農者と企業参入

令和6年度の新規就農者数は290人で、このうち女性就農者数は83人と過去最多であった。企業参入件数は21件であった。

《新規就農者数と企業参入数の推移》



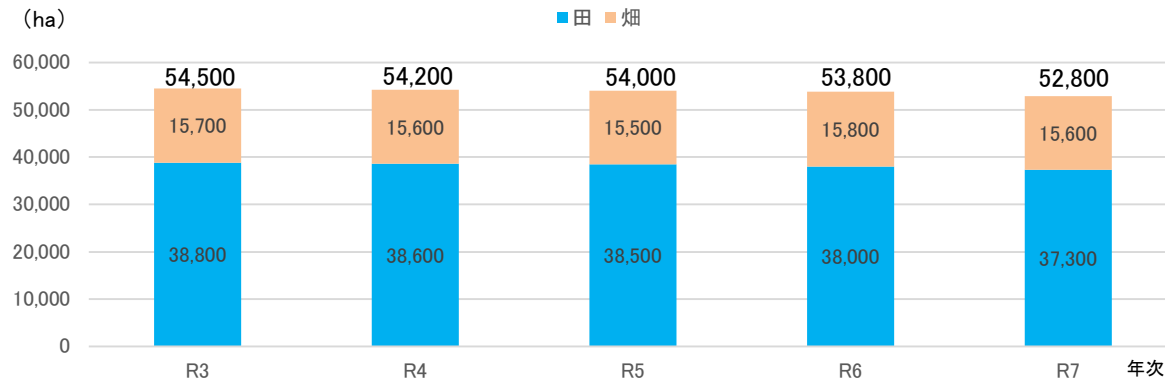
資料：大分県(新規就業・経営体支援課、企業参入・支援室)調べ

② 農地の状況

ア 耕地面積

令和7年の耕地面積は、田は37,300ha、畑は15,600haであり、耕地面積計は前年に比べ1,000ha減少している。

《 田畑別耕地面積の推移 》



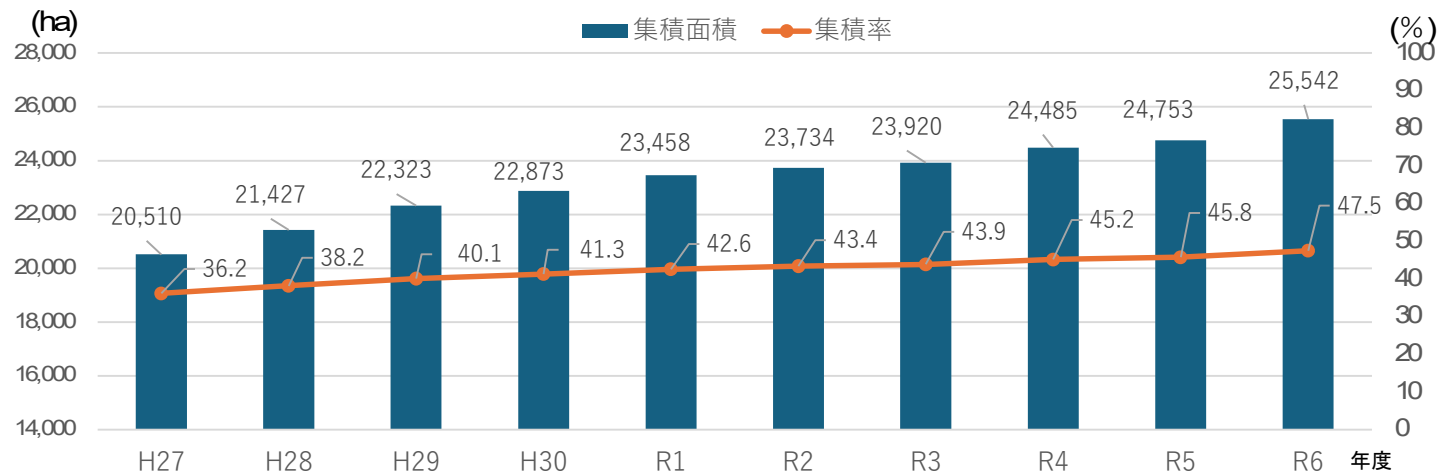
資料：作物統計調査（農林水産省） 田畑別耕地面積

※項目ごとに四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

イ 担い手への農地集積

令和6年度の担い手への農地集積面積は25,542haとなり前年度より増加した。農地集積率は前年に比べ1.7ポイント上昇し(47.5%)、年々増加している。

《 担い手への農地集積面積と集積率の推移 》

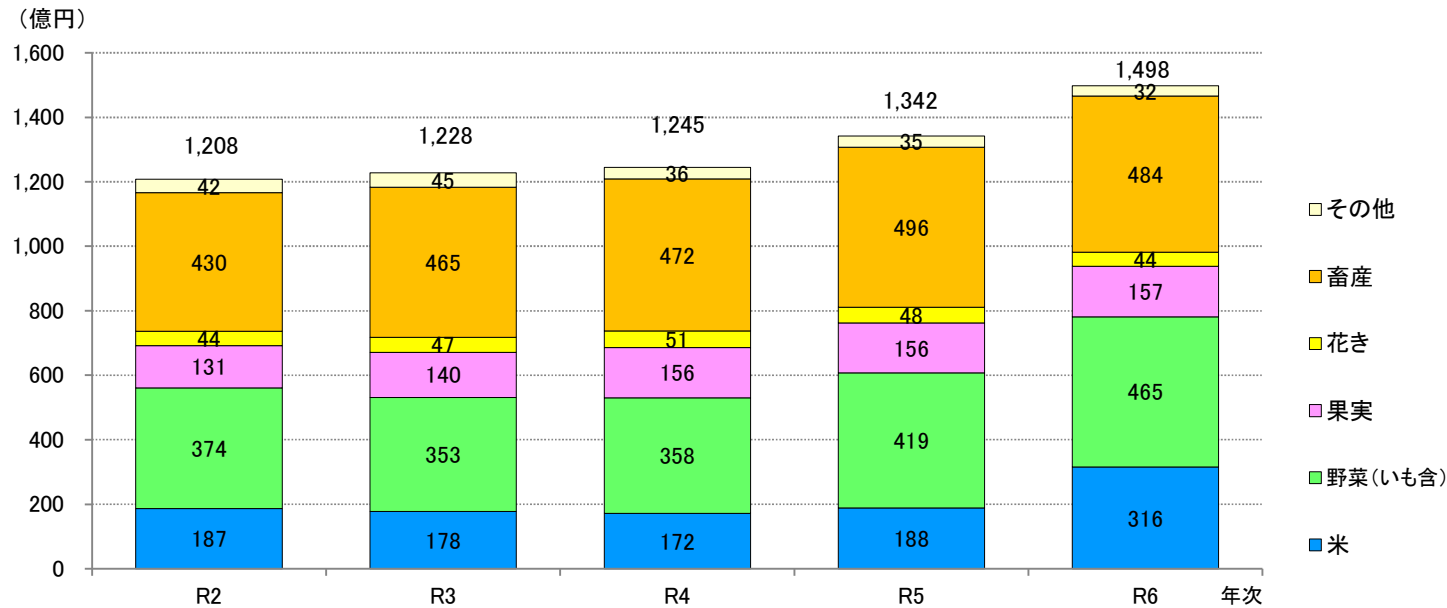


資料：大分県(水田畑地化・集落営農課)調べ

③ 農業産出額

令和6年の農業産出額は1,498億円となり、5年連続で増加している。野菜では短期集中支援による白ねぎ、高糖度かんしょ等の面積が拡大した。果実では、国産需要の高まりを背景に、ゆず等の露地柑橘やキウイフルーツ等の新植面積が増加し、園芸基幹品目の産地拡大が進んだ。畜産では生産基盤の強化を図り、肉用牛や豚が増頭した。こうした生産拡大に加え、米や野菜、果実等の価格上昇もあり、農業産出額が向上した。

《農業産出額の推移》



《農業産出額における各品目が占める割合》

